

平成29年度 自己評価表

松山南高等学校 (砥部分校)

学校番号 22

教育方針	国家社会の有為な形成者として、広く世界的視野に立ち、新しい文化の創造と発展に寄与する若人の育成を期する。	重点目標	さわやかな目・豊かな心・確かな手を育てる 夢を育み、志高く個性を伸ばす教育の推進 －生徒一人一人を大切にされた指導の実践－
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学 習	教科指導の充実	年間5回の授業相互参観実施。 生徒アンケートの回答「 <u>授業内容がよくわかる・わかる</u> 」:90%以上。	B	公開授業の際に教員相互で参観を実施。生徒の授業評価「よくわかる、わかる」合計94%。	日常の授業においても、随時、授業参観を行うようにして、それぞれの授業について、気付いたことを指摘し合い、授業力向上に努める。
		学力の格差に対応した早期からの個別指導を行い、基礎学力の定着や進学に必要な学力・技術力の伸長を図る。	B	一般教科の学力が不足している生徒の改善は不十分。大学進学希望者が増加。学習意欲の高い生徒も増加。	学力に格差があるが、進学希望者においては、それぞれの進路に応じた指導を工夫し、学力保障を図る。不振者への個別指導を充実させる。
指 導	デザイン技術の習得	校外展への応募一人:1点以上。 校外展入賞:65名以上。 県展入選以上が出品数の:70%以上。	B	校外展での入賞は70名。県展は66.4%が入選以上。美術会大賞1名、特選3名、推奨5名。特に工芸部門は入選以上100%。特選1名、推奨1名。全国公募展での入賞が減少。	全国規模の公募展で入賞できる作品制作の力を、授業や部活動を通してきめ細やかに指導し、新たなジャンルへも挑戦させる。また、全国総文祭への出品を目指す。
		外部講師による講演会等を実施し、 <u>作品制作における技術向上を図るとともに学校の魅力化を図る。</u>	B	創立70周年記念で外部講師を招き、専門的な技術やデザインの考え方を学習。また、実践的なデザイン技術を習得。	「地域に生き地域とともに歩む高校生育成事業」を核として、砥部町との関係をより強化したデザイン科らしい取組を授業に取り入れ、実践的なデザインワークを行うことにより学校の魅力化を図る。
生 徒 指 導	基本的な生活習慣の確立	清潔感のある身だしなみと挨拶の励行を通して、端正でさわやかな「砥部分校生」の育成を目指す。	A	校外においても、良好な挨拶ができるようになった。各自で状況に応じた身だしなみができるようになった。	校内においては、教職員からも積極的に声掛けをし、さわやかな挨拶や身だしなみができるよう、マナーの向上を図っていく。
		欠席者:1日2名以内。 遅刻者:1日2名以内。 1か年皆勤者率: <u>30%以上</u> 。	B	欠席者1.8人/日、遅刻者2.3人/日、皆勤率は29.4%で、欠席者、遅刻者数はほぼ前年並み。皆勤者は大幅に増加。	登校時間帯のバスは本数が限られている。公共交通機関はバスしかないので、渋滞による遅刻等の処理について検討する必要がある。
	交通安全指導の充実	交通事故0件。 自転車運転時のヘルメット着用率: <u>100%</u> 。	B	自転車ヘルメット着用、安全走行の定着。軽微な自動車との接触事故が増加。	ヘルメットの着用、安全走行の一層の徹底を図るとともに、早朝や夕暮れ時など、ゆとりを持った登下校に努めさせる。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
進路指導	進学指導の充実	美大等を中心に、高い志を持たせる。 志望校への進学率:100%。	B	高い志を掲げ、難関芸術(美術)大学や一般学部の4年制大学受験志向が定着しつつある。推薦・AOだけでなく一般入試受験者も増加。	1・2年生のオープンキャンパス参加を推奨する。担任による個人面談の充実と全職員の連携により、一人一人を見つめた進路指導を推進する。
		進路ガイダンス等を実施するとともに、実技や教科の補習を充実させ、進路目標の確立を促す。	A	年3回の進路ガイダンスに加え、年2回の美術大学による実技指導・ワークショップを実施し、進路目標を確立した生徒が増加。	生徒の目的意識と進学意欲をより高めるため、高大連携による実技指導を充実させると共に、学科の重要性に対する意識を向上させる。
	就職指導の充実	就職講座を継続的に実施することにより就業観を育成する。就職希望者の就職率:100%。	B	進路課就職担当者の充実した個別及び集団面接指導により、学校幹旋による就職希望者の就職率は100%。	基本的な生活習慣の確立を図る指導を継続。特に、遅刻欠席をしない、気持ちの良い挨拶、学習時間の確保について、日常の学校生活の中で全職員で指導する。
豊かな心の育成	人権教育の充実	人権を尊重した環境作りといじめを防止する集団作りに努める。 いじめ発生:0件。	B	担任とカウンセラー主任による教育相談を実施し、教職員全員によるチームワークで対応した結果、大きな問題を生じることにはなかつ	学校生活全般を通して人権意識を高め、生徒一人一人を見つめた教育の一層の充実を目指す。生徒人権委員会の活動を活発化させる。
	自尊意識の育成	日々の学習活動や制作活動、学校行事等を通して、自尊意識を高め、社会性を育てる。	B	生徒・教職員との触れ合いを通して、自信をつけさせ、自尊感情、社会性を高めるよう図った。	生徒一人一人の状況を把握し、寄り添い、良い点を認めて励ましながら、生徒が自信を持って生きていけるような指導を継続する。
	心身共に健康で人間性豊かな生徒の育成	「オール南高」の意義を理解できた生徒の割合:70%以上。	B	文化祭、台湾工芸研修、卒業を祝う会等で生徒同士の交流実施。「オール南高」として協力する意識が醸成されてきた。	本校に対する気後れを感じる生徒もいるが、交流の機会を活用して自然な形で「オール南高」の意識を高められるよう図る。
開かれた学校づくり	保護者との連携強化	「参加したくなるPTA活動」を目指し、PTA活動の参加率向上を図る。 PTA総会参加率35%以上。	A	PTA理事会・研修旅行等、PTA行事への参加者も多く、有意義な提言もいただいた。総会参加率は38%。70周年記念式、文化祭等で本校PTA役員との交流を図った。	保護者と学校のつながりをさらに大切にし、PTA役員の協力を得ながら、保護者に学校行事やPTA活動への参加・協力を求める。機会をとらえて本校PTAとの交流を進める。
	地域貢献の推進	地元砥部町との連携を深め、制作活動やボランティア活動による地域貢献を積極的に進める。	A	地域の要請に応えた制作活動や、他校と協力した活動、また分校をアピールする作品制作を積極的に行なった。	引き続き、砥部町、砥部焼協同組合、砥部町社会福祉協議会など、地域との連携を強めていく。また、他校との連携や協力も図る。
	広報活動の改善・充実	「PTA便り」の充実、ホームページの工夫を図る。 ホームページアクセス数:1日100以上。	B	「PTA便り」の発行時期を見直すとともに、充実したホームページを作り分校をアピールした。ホームページアクセス数は1日150程度。	中学校への広報活動をさらに強化し、ホームページも高いレベルを維持する。管理職を中心に、中学校等へ出向いて説明会等の機会を充実させる。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。